

マスクに関する見解

2020年のCOVID-19流行開始以降、一部の研究結果に基づいてマスクには高い感染予防効果があると喧伝され、日常生活において常時マスクを着用することが強く推奨されて事実上必須となりました。しかしその一方で、常時マスクを着用することによる弊害や、マスクを着用することで強い苦痛を感じる人たちの人権は蔑ろにされてきました。

こうした状況をふまえて全国有志医師の会は、全国民が常時マスクを続けるのではなく、

- ・日常生活では基本的にマスクを着用しない
- ・咳など気道症状がある人は、咳エチケットの選択肢の一つとしてマスクを着用する

というように、2019年以前と同様の扱いに戻すべきだと考えています。

その理由として、

- ・常時マスク着用は、現実世界の大きな集団で見ると感染予防効果が見られない
- ・常時マスク着用は、国民の健康や子供の発達に与える悪影響が大きい

ということが挙げられます。上記の具体的な根拠となる資料は別途記載します。

マスメディアの調査結果を見ると、日本国民の多くはいつまでも常時マスクを続けたいとは思っていないようですが、実際には人の目を気にして外したくても外せない状況に陥っています。また子供の間ではマスクをしないことで差別やいじめが起きているのみならず、人に顔を見られたくない、人の息をかけられたくないというような深刻なマスク依存の状況にもなっています。

こうした状況がいつまでも続くことは、この国の未来にとっても子供たちの未来にとっても望ましいことではありません。気道症状もなくマスクを着用したくない人に、マスクを強要するのはもうやめましょう。今一度マスクの効果と弊害を見直し、マスクの着用で強い苦痛を感じている人たちや、マスクの弊害を考えて警鐘を鳴らし続けている人たちの声にも耳を傾け、COVID-19流行以前の社会を取り戻すためにご協力頂けましたら幸いです。

何卒宜しく願い申し上げます。

2022年7月7日

 全国有志医師の会
Volunteer Medical Association



マスク着用の弊害に関する資料 2022/7/13

(当会 HP 内の「マスクに関する見解」のサイトで、以下の資料の詳細と論文を確認できます)

1. 常時マスク着用は、大きな集団で見ると感染予防効果が乏しい

- (1) コロナ以前には「効果なし」とされていた
- (2) 常時マスク着用を義務化していた韓国・台湾で過去最大の流行が起きた
- (3) その他の国や地域でも、常時マスク着用の効果は見られない
- (4) アメリカメディアの記事



2. 常時マスク着用は、国民の健康や子供の発達に与える悪影響が大きい

(1) COVID-19 の病態への影響

- ・アメリカのカンザス州についての論文によれば、マスクを義務化した地域では義務化しなかった地域よりも有意に新型コロナウイルスの致死率が高い(約 1.5-1.8 倍)(Forgen 効果)
- ・ヨーロッパでは、マスク着用率が高い国ほど死亡率(コロナに限らない死亡率)が高かったという報告

(2) 子供の発達への影響

- ・幼児期、児童期、思春期を通じての認知能力の発達を分析し『パンデミック中に生まれた子どもは、パンデミック前に生まれた子どもと比較して、言語能力、運動能力、総合的な認知能力が著しく低下している』との結果を示した
- ・マスクが子どもの感情理解力に及ぼす影響 小学校-大学共同研究からの知見
- ・精神科医で心理ストレスを専門.5月10日の東京新聞記事で「子どもは顔にコンプレックスを抱えている場合も多い。感染対策のはずが、素顔を隠すことに利点を持つと、将来マスクを外せなくなりかねない」「感染リスクがない時はできるだけ外させた方がいい」
- ・ドイツから発表された観察研究「マスクにより子どもたちにイライラ(60%)、頭痛(53%)、集中力の低下(50%)、幸福感の低下(49%)、学校・幼稚園への行き渋り(44%)、倦怠感(42%)、学習障害(38%)、眠気・倦怠感(37%)」など
- ・幼児期、児童期、思春期を通じての認知能力の発達を分析し『パンデミック中に生まれた子どもは、パンデミック前に生まれた子どもと比較して、言語能力、運動能力、総合的な認知能力が著しく低下している』
- ・マスクをすることで言葉の聞き取りやすさや内容の想起が妨げられる。ドイツ語を母語とする成人1名と小児1名が発話した文の聞き取りやすさと想起にフェイスマスクが与える影響を検討したところ、フェイスマスクは聞き手の明瞭度と想起能力に有意な影響を与えることが分かった。
- ・マスクを使うと音声理解度が下がる。15人の聴覚正常なドイツ語話者を対象にした研究で、フェイスマスク使用時の音声理解度は、マスク不使用時と比較して有意に低下した。

(3) マスクの人体への影響

- ・鼻と口を覆うマスクを日常的に使用する事の副作用と潜在的な危険性についての総説(系統的レビュー)
- ・マスクは環境中のナノ粒子とマイクロプラスチックの発生源となる。生物濃縮の可能性
- ・マスクの使用を何らかの形で積極的に介入した群とコントロールとを比較した無作為化対照試験および観察研究を対象としたメタアナリシスとシステムティックレビュー
- ・マスク着用によるマイクロプラスチック吸入のリスク

(4) 心肺機能への影響

- ・アスリートがマスクを着用して運動するとパフォーマンスが落ちる。濡れたマスクで呼吸困難になる。
- ・健康なボランティアが運動中にマスクをすると、マスクをしていない時より早く酸素不足に陥る。